◎十五夜に友を招く文

岩代須賀川本町　服部貞子

今宵しも十五夜に候へば、あばら屋にての觀月もまた一興と、芋も掘りこ、枝豆も取りこと、今日の半日は過して候。何はなくとも三五の月、ひとり眺めんは、惜しう候へば、是非々々、夕方よりお越し下され度、早ければとて、お日様も苦情は申し候まじ。すゝき切るとて、右の小指を切り候ものを、母とまるめたる團子の加減もおほめにあづかり度く候ものを、今宵の御勉強は罪に候ぞ。たゞ何事も月の如く丸うお聞きずみ下され度く、今宵を限りに放ちやる兎に別れのお歌袋、お忘れ遊ばさぬ様：：かしこ。

【入力者注】　底本には傍点等が付されていますが、煩雑を避けるため省きました。

底本：「女子文壇」明治三十八(1905)年第拾壹號
テキスト入力：小林　徹
公開：令和三年三月四日
リンク：水野仙子ホームページ